

サンコールがエンジン自動車関連部品を中心とした事業ポートフォリオ(構成)の改革を進めている。2024年3月期連結決算は最終赤字となつたが、6月末に就任した奈良正社長は、電気自動車(EV)やデータセンター関連に注力し、巻き返しを図る方針を示した。(聞き手・田中俊太郎 撮影・奥村清人)
—厳しい業績の中で経営トップのバトンを引き継いだ。

「プレッシャーを感じ

ている。24年3月期は、ハードディスクドライブ(HDD)用サスペンションと自動車部品で大きな減損があった。サスペ

ンションはデータセンタ

ーの設備投資需要が急速

に落ち込むなど市場の動

向が影響したが、何か手

を打てなかつたのかとい

う反省はある」

—既存のエンジン関連

サンコール社長

奈良 正氏



EV・AIに積極投資

事業の見通しは。

はない

「エンジンで動く乗用車は25年をピークに徐々に減っていくのではない

かと見ている。ただ、エンジンだけで動く車は日本では少なくなつても東南アジアや南米、アフリ

カにはまだまだ需要がある。さらにEVよりもハイブリッド車の方が先に広がる。電動化の流れは

変わらないが、エンジン車の台数も急に減ること

—エンジン部門以外で強化する事業は。

「EV関連と電子情報

通信関連だ。EV関連で

は、配電部品のバスバー

で大型案件を受注でき

た。思い切って投資して

伸ばしていきたい。また

車の台数も急に減ること

が難しくなる。EVだけ

でなく、風力発電所や充電器など、さまざまな

分野に用途が広がるだろ

う」「電子情報通信関連で

は、今期は生成AI(人工知能)の普及でデータ

センターの投資が活況

だ。特に光コネクターは

場拡大が見込める。高電

圧・大電流化が進むと

需要に追いつかない状態

—包括連携協定を結んで

新社長に聞く

interview with new president

スームへの展開も予想され、力を入れていく」
—ノートなど一般消費者向け商品の開発も始めた。

なら・ただし 東北大院修了。
1985年、トヨタ自動車入社。2017年、サンコール執行役員に就任し、19年から取締役。専務執行役員、副社長執行役員を経て、24年6月から現職。静岡県出身。63歳。

「包括連携協定を結んで

いる宮津市の放置竹林の間伐材で竹炭を生産し、新たなブランドも作

った。われわれは京都の企業なので、地域との関

わりを大切にしてきた

い。われわれの特徴、技術を生かして面白いこと

ができるいか、社員から

アイデアを募集してい

でなく、風力発電所や充電器など、さまざまな

分野に用途が広がるだろ

う」「電子情報通信関連で

は、今期は生成AI(人工

知能)の普及でデータ

センターの投資が活況

だ。特に光コネクターは

場拡大が見込める。高電

圧・大電流化が進むと

需要に追いつかない状態

—既存のエンジン関連

